

1つまらずに読めるようになるまでくり返し読みましょう。

合格サイン

すらすら読めるようになったという人は、先生にテストしてもらいましょう。



2では、さし絵をてがかりにしてこの物語のあらすじを書いてみましょう。



3この物語を読んで思ったことを書いてみましょう。

（おもしろかったところ、ふしぎだったところ、など）

4これからの勉強で、みんなとよく考え合ってみたい問題をいくつか考えてみましょう。

5場面ごとにくわしく読んでいきましょう。

ある所に、三年とうげとよばれるとうげがありました。

あまり高くない、なだらかなとうげでした。

春には、すみれ、たんぽぽ、ふでりんどう。とうげからふもとまでさきみだれました。れんげつつじのさくころは、だれだったため息の出るほどよいながめでした。

秋には、かえで、がますみ、ぬるでの葉。とうげからふもとまで美しく色づきました。白いすいきの光るころは、だれだったため息の出るほどよいながめでした。

三年とうげには、昔から、こんな言いつたえがありました。

「三年とうげで転ぶでない。三年とうげで転んだならば、三年きりしか生きられぬ。」

長生きしたけりゃ、転ぶでないぞ。三年とうげで転んだならば、長生きしたくも生きられぬ。」

ですから、三年とうげをこえるときは、みんな、転ばないように、おそるおそる歩きました。

。「三年とうげってどんなところ？」と聞かれ

たら、あなたはこう答えますか？

。村の人たちは、三年とうげ」の言いつたえを
しんじていたでしょうか？それともあまりしんじ
ていなかったでしょうか。

・ しんじていた ・ しんじてない

そのわけ

ある秋の日のことでした。一人のおじいさんが、
となり村へ、反物を売りに行きました。そして、帰
り道、三年とうげにさしかかりました。白いすすき
の光るころでした。おじいさんは、こしを下ろして
ひと息入れながら、美しいながめにうっとりしてい
ました。しばらくして

「こうしちやおれぬ。日がくれる」

おじいさんは、あわてて立ち上がると、

「三年とうげで転ぶでないぞ。」

三年とうげで転んだならば、

三年きりしか生きられぬ」

と、足を急がせました。

お日さまが西にかたむき、夕やけ空がだんだん暗
くなりました。

ところがたいへん。あんなに気をつけて歩いてい
たのに、おじいさんは、石につまずいて転んでしま
いました。おじいさんは、真っ青になり、がたがた
ふるえました。

家にすっとなでいき、おばあさんにしがみつき、
おいおいなきました。

しゅう。『書きこみ読み』のれん
しゅうをしてみましょう。

おじいさんの言ったことは
や、したことが書いてある文
に線をひきます。

線のよこに、そのときのお
じいさんのようすや気持ち
をそうぞうして、書いてみま
しょう。

かきこみのヒント

↑なぜ、そんなにあわてて
いるの？

↑おじいさんは走ってい
る？走ってない？

↑なぜ真っ青になったの？
転んでいたかったから？じ
やないね。

↑なぜおばあさんにしがみ
ついたのかな？まるで小さ
い子どもみたいだね。

「ああ、どうしよう、どうしよう。わしのじゅみよ
うは、あと三年じゃ 三年しか生きられぬのじゃあ

その日から、おじいさんは、ごはんも食べずに、
ふとんにもぐりこみ、とうとう病気になってしま
いました。お医者をやぶやら、薬を飲ませるやら、お
ばあさんは、つきつきりでかん病しました。

けれども、おじいさんの病気はどんどん重くなる
ばかり。村の人たちもみんな心配しました。

そんなある日のこと、水車屋のトルトリがみまい
に来ました。

「おいらの言うとおりにすれば、おじいさんの病気
はきつとなおるよ。」

「どうすればなおるんじや。」

おじいさんは、ふとんから顔を出しました。

「なおるとも 三年とうげで もう一度転ぶんだよ

「ばかな。わしに、もっと早く死ねと言うのか」

「そうじゃないんだよ。一度転ぶと、三年生きるん
だろう。二度転べば、六年、三度転べば、九年、四

↑どんな顔、どんな声で言
っているかな

↑これは、やっぱり三年と
うげのたたりなのかな？

↑村の人たちは、おじいさ
んのようすを見て、どんな
話をしていただろうね。

↑のっそり顔を出したのか
な？とびおきるようにかな
この時のおじいさんの声の
ちようしは？

↑この時の言い方は？
かんかんになってどなっ
ているのか、そうでもないの
か？

度転べば十二年。このように、何度も転べばううんと長生きできるはずだよ。」

おじいさんは、しばらく考えていましたが、うなずきました。

「うん、なるほど、なるほど。」

そして、ふとんからはね起きると、三年とうげに行き、わざとひっくり返し、転びました。

このときです。ぬるでの木のかげから、おもしろい歌が聞こえてきました。

「えいやら えいやら えいやらや。」

↑何を考えていたのかな？

↑このときのおじいさん、
どんな顔？どんな声？

↑ねたきりだったおじいさんなのに、どうしてもはね起きられたの？

一ぺん転べば 三年で、

十ぺん転べば 三十年。

百ぺん転べば 三百年。

こけて 転んで ひざついて しりもちついて

でんぐり返り 長生きするとは、こりやめでたい」

おじいさんは、すっかりうれしくなりました。

ころりん、ころり、すってんころり、べったんこ

ろり、ひよいころ、ころりんと、転びました。あんな

まりうれしくなったので、しまいには、とうげからふ

もとまで、ころころりんと、転がり落ちてしまいま

↑歌を聞いて、なぜ「すっかりうれしく」なったの？

↑どんなおじいさんがうか
んできますか？

した。そして、けるけるつとした顔をして、

「もう、わしの病気はなおった。百年も、二百年も、長生きできるわい」と、にこにこわらいました。

こうして、おじいさんは、すっかり元気になり、おばあさんと二人なかよく、幸せに、長生きしたということです。

ところで、三年とうげのぬるでの木のおかげで、

「えいやら えいやら えいやらや。一ぺん転べば 三年で、十ぺん転べば 三十年。 百ぺん転べば 三百年。こけて 転んで ひざついて、しりもちついてでんぐり返り、長生きするとは、こりゃ めでたい」と歌ったのは、だれだったのでしょうかね。

6 読み終えての感想を書きましょう。

7 自分でこの勉強に点数をつけるとしたら百点まん点で、何点ぐらいですか？（点）
そのわけを書きましょう。